

FGC NEWS



公益財団法人 世界こども財団
FGC—Foundation for Global Children

No.14 February 2019



国際交流・支援活動

- 2019 年、そして 2020 年へ向けて
- SEISA Africa・Asia Bridge2018 開催
- 留学生活動報告
- 各国活動報告
- 第 2 回 ISPS Handa Cup アーチERY大会
- RTC テンジン・ヨンテン理事長来日、講演

東日本大震災支援

- 「北の大地に会いに行こう !! 2018」
- 相馬市にてサッカー交流



緊急災害支援

- 災害支援活動報告 2018





世界こども財団では昨年 2018 年も国内外の各地域で、医療、教育、スポーツを通じたこどもたちと青少年の育成に邁進いたしました。また昨年は、賛助会員や寄付など、国内外でもこれまで以上に多くの個人・団体のみなさまからのご支援をいただいた 1 年となりました。

今年も世界こども財団の活動にご協力をいただけますよう、何卒よろしくお願いいたします。

2018 年の主な活動

- ・ミャンマー連邦共和国と 2020 年東京オリンピック・パラリンピック大会事前キャンプの協定を締結
- ・エリトリア、ブータン両国から陸上競技選手およびアーチェリー選手を長期留学生として継続的に受入れ
- ・ブータン、ミャンマーのアーチェリー代表選手を日本に招待、ISPS Handa Cup および日本代表との強化合宿支援
- ・SEISA Africa・Asia Bridge 2018 (第 4 回)「知繋 (ちけい：学んでつながること)」をコンセプトに、アフリカとアジアの橋渡しとなるべく開催。2 日間に計 36 カ国から 7,000 人以上が来場
- ・東日本大震災支援活動を継続するとともに、7 月の西日本豪雨、9 月の北海道胆振東部震災、10 月のサイバン台風被害に対しても、義捐金募集活動を展開

世界こども財団 活動報告会を開催しました

2019 年 1 月 18 日 (金)、公益財団法人となって以来 3 回目となる活動報告会を、大磯プリンスホテルにて開催しました。

当日は、日頃から多大なご支援をいただいている個人、法人会員のみなさまを始めとして、ご寄付などを通じて様々なかたちで財団の活動を応援してくださっている、多くのみなさまにご来場いただきました。宮澤保夫理事長や井上一評議員よりご挨拶とお礼を申し上げたほか、2018 年を中心に世界こども財団の活動や成果について、動画やスライドを交えながらご報告しました。

報告会後の懇親会では、星槎国際高校湘南、星槎道都大学でスポーツと勉強に励んでいる留学生たち、世界こども財団の職員として勤務しながら、日本での大学院留学を目指すブータン出身のペマ・セルデンさん、オリンピックにも 2 回出場したエリトリアのマラソン記録保持者であり、現在は星槎の留学生・スタッフ・アスリートとして日本で活動しているヤレド・アスメロンさんも壇上に上がり、みなさまのご支援への感謝の気持ちをお伝えしました。そして星槎国際高校湘南野球専攻の監督でもある、土屋恵三郎専務理事も野球部員と共に応援に駆けつけ、会場を沸かせてくれました。

また、ご来場いただいたみなさまからも、国際支援、教育支援、スポーツ支援、医療支援など、様々な分野における活動についての、興味深いお話を聞くことができました。

会場では世界こども財団の会員やご支援をいただいているみなさま同士の交流も活発に行われ、次の活動へと繋げることで新しい出会いも多くありました。今後も世界のこどもたちのための活動を続けていく決意を、支援者のみなさまと共に分かち合うことでできた、実りある報告会となりました。ご来場いただいたみなさま、誠にありがとうございました。



来場者のみなさまにご挨拶をする宮澤保夫理事長



活動報告の様子



留学生たちもステージでご挨拶し感謝を伝えました

2020年へ向けて

2019年の活動予定

- ・オリンピック・プレイヤーにおける事前キャンプ受け入れ、競技支援等の推進
- ・各国からの新たな留学生受け入れをはじめとするスポーツを通じた青少年育成支援
- ・SEISA Africa・Asia Bridge の開催、各国や東日本大震災支援など、これまで行ってきた事業の継続と発展

今年は2020年東京オリンピック・パラリンピック大会のプレイヤーにあたり、オリンピック関係の話題も毎日のように報じられています。世界こども財団と星槎グループでも、各国への競技やアスリートの支援、そしてホストタウンである神奈川県、小田原市、箱根町、大磯町との協働による事前キャンプ受け入れを実施していきます。

現在エリトリアから4名、ブータンから3名のスポーツ奨学生を受け入れています。さらに今年はエリトリアから陸上競技の高校生3名、ブータンからアーチェリー高校生2名、柔道大学生2名、そして

ミャンマーより新たに空手の高校生3名の来日が決まっています。

昨年1年間をかけて、現地に足を運び、競技面だけでなく人柄、意欲や学習面も考慮して選ばれた留学生たちです。新たな仲間を迎え、スポーツを通じた青少年育成と国際交流を更に進めていきます。

もちろんスポーツだけでなく、東日本大震災の支援活動、バングラデシュの孤児院の縫製工場設立支援など、これまで行ってきた事業も継続、発展させていきます。
(FGC 石井洋祐)

留学生紹介 あたらしい仲間たち



エリトリアから星槎国際湘南の陸上競技専攻へ留学予定の高校生3名
(左から：ダイモン君、メルハウィ君、ナトナエル君)



ブータンの高校生大会で優勝し星槎国際湘南アーチェリー専攻に留学予定のドルジさん（左端）、とナムゲイ君（右端）



ブータンから星槎湘南大学柔道部へ留学予定の2名
(左から：キンレイ君、タンディン君)



ミャンマーから空手で星槎国際湘南へ留学予定の3名
(左から：スーさん、ヤミンさん、カウ君)



アフリカ、アジア、日本、「知^ち繋^{けい}」を 合言葉に学び、繋がる2日間



アフリカ各国からのゲストが勢揃いした開会式で挨拶をするエリトリアのエスティファノス駐日大使

第4回目となる SEISA Africa・Asia Bridge (SAAB) が、2018年11月10日(土)、11日(日)に、横浜の星槎中学高等学校において開催されました。昨年に引き続き、今年度のテーマも知ること、繋がること、仲間になることを表現する「知^ち繋^{けい}」。アフリカ・アジアを知って、仲間と繋がり、友好の橋をかけた2日間でした。

講演、ディスカッション、プレゼンテーションで子どもも大人も一緒に考える。本物の音楽、文化、スポーツ、食を体験する。アフリカ・アジアの真実を知り、世界がつながる。各国大使館を中心にアフリカ、アジア、太平洋各国紹介ブースにて民族衣装体験や民芸品の販売、音楽・ダンスアーティストによるパフォーマンス、オリンピックなどによるトークショー、全国の星槎中学生のプレゼンテーションや演劇発表、ゲーム・スポーツを通じた交流コーナーなど、子どもから大人まで楽しめる企画が盛りだくさんでした。

両日ともに好天に恵まれ、アフリカ、アジアの大使や大使館関係者、国内では外務省、JICA、神奈川県や各市町村などから今年も多くのお客様をお迎えし、

2日間で各国の大使館16カ国、その他20カ国以上、そして日本を合わせると36カ国が参加し子どもから大人まで総来場者数7,011名の皆様と共に、学びと関わり合いの輪を広げることができました。

世界子ども財団は主催団体のひとつとして、企画・運営に携わり、ブースを設置し活動紹介を行いました。11日(日)には「知^ち繋^{けい}プロジェクト」として、世界子ども財団が支援活動を行なっているバングラデシュのアグラサーラ孤児院と会場をスカイプでLIVE中継しました。日本の子どもたちとバングラデシュの子どもたちが挨拶を交わし、共に歌を歌い、伝統舞踊を披露するなど交流を深めました。

星槎国際湘南陸上競技・アーチェリー専攻の留学生たちもSAABに参加し、スポーツを超えた様々な交流プログラムに参加しました。ブータン出身のツェリング・ペンジョ君は、10日(土)に行われたsTED (SEISA Transnational Education Design: ステッド) Finalで全国の予選を勝ち抜いた星槎の中高生代表7人のうちの1人として、ブータンの政策である「国民総幸福量 (GNH)」とSAABのテーマであ



アフリカの伝統音楽とダンスを披露する「リンゴマ」



世界こども財団のブース



sTED で熱いスピーチを披露したツェリング君



フィナーレで来場者にメッセージを送る宮澤理事長



「夢トーク 2020」でオリンピック達の話に耳を傾ける生徒たち。一番右がデジェン君



(左から) RTC 学生のキンレイさん、タマさん、ツジさん、FGC 職員のベマさん、RTC 学生のタシさん

る「知繋」と「共生」との繋がりについて見事なプレゼンテーションを披露しました。

11日(日)は、エリトリア出身のデジェン・テスファレム・ウェルドゥ君が、オリンピックや世界大会金メダリストとのトークショー「夢トーク 2020」に参加し、トップアスリート達の話に耳を傾け、「オリンピックに出る」という自身の夢に向かって気持ちを新たにしました。またエリトリア出身アヌール・モハマド・アタ君、ブータン出身ソナム・チョデンさんとニダップ・ドルジ君も含めた留学生5人はマルチエイジディスカッションで、元WHO世界ハンセン病対策プログラムでチームリーダーとして活躍された医学博士バブさんこと、スマナ・バルア先生のご指導のもと参加した仲間たちと共にそれぞれが考える「豊かさ」について意見交換しました。

アーチェリー体験ブースでは、アーチェリー・陸上競技専攻の留学生も含めた生徒全員で訪れた方達がアーチェリー体験するお手伝いをしました。普段馴染みがない為大変珍しく、常に人が押し寄せる人気ブースとなりました。

姉妹校であるブータン初の私立大学ロイヤル・ティンブー・カレッジ(RTC)から4名の学生が来日し、民族衣装のキラやゴをまといブータンの踊りを披露したり、ブータン紹介ブースでは民族衣装体験コーナーを出展したりしました。マルチエイジディスカッションにも参加するなど、SAABプログラムに積極的に参加し日本とブータンの架け橋として文化交流をし

ました。

SAABの学びは、より発展し、多くのの方々にご称賛をいただきました。

フィナーレのステージ会場では1,000人以上の方々が一斉に未来に向けて夢や願いを書いた紙飛行機を飛ばし、掛け声とともに参加者全員がひとつにつながり、4回目のSAABが大盛況ののちに感動の幕を閉じました。

今回も外務省、文部科学省、神奈川県・横浜市・小田原市・箱根町・大磯町の各自治体および教育委員会、独立行政法人国際協力機構(JICA)のみなさまにご後援いただいたほか、地域を超えて多くのみなさまのご協力をいただきました。世界こども財団と星槎グループでは今後も、2020年、そして未来へ向けてさらに多くの皆様と共にSEISA Africa・Asia Bridgeの取り組みを続けていきます。

ご協力いただいた皆様、ご来場いただいた皆様、誠にありがとうございました。(FGC 井上美智代)



未来に向けて飛んだ紙飛行機



国際交流・支援活動報告 スポーツ奨学生プログラム

オリンピック・ソリダリティ・プログラム エリトリア、ブータンのスポーツ奨学生が IOCバッハ会長に活動報告を行いました



IOC オリンピック・ソリダリティ・プログラムの留学生たちと IOC バッハ会長

世界こども財団が窓口となり実施している各国からのスポーツ奨学生プログラムは、国際オリンピック委員会（IOC）の評価をいただき、世界初の公式プログラム「オリンピック・ソリダリティ・プログラム」に発展しています。2018年11月25日、エリトリア、ブータンから星槎国際湘南への留学生5名が、味の素ナショナルトレーニングセンター（東京都）にて、IOC トーマス・バッハ会長に直接お会いし、活動報告を行いました。

今回の面会は来日中のバッハ会長とプログラム対象選手たちの交流の場として催され、星槎国際湘南の陸上競技専攻に留学中のエリトリアのデジェン君、アヌール君、ブータンのツェリング君、アーチェリー専攻に留学中のブータンのニダップ君、ソナムさんの5名はそれぞれ、日本での競技面や学習、生活面での経験、そこから学んだことや将来の目標についてバッハ会長に報告しました。

バッハ会長は、選手たちの日本での目覚ましい成長に驚き、彼らに向けてアスリートとしての未来への貴重なアドバイスをいただきました。質疑応答の際には、ツェリング君からアスリートのキャリア形成について



座談会にて質問をするブータンのツェリング君

の質問があり、フェンシングのゴールドメダリストでもあるバッハ会長からは「競技の面でも、人生の面でも、教育が重要であり、学び続けることが大切」であるという言葉いただきました。

これから世界を舞台に活躍していく留学生たちにとって、バッハ会長と直接語らい、励ましをいただいたことは大変貴重な経験となりました。そしてこうした彼らの活動は、本人たちだけでなく、各国の次の世代の青少年、こどもたちにも夢と目標を与えるものであり、世界こども財団では2019年も引き続き、彼らの活動、そして広くスポーツを通した青少年育成、国際貢献に尽力していきます。（FGC 石井洋祐）



国際交流・支援活動報告 スポーツ奨学生プログラム

留学生活動紹介

神奈川県高校駅伝大会

2018年11月4日、足柄上郡山北町丹沢湖において、第71回神奈川県高等学校駅伝競争大会が開催され、星槎国際湘南の陸上競技専攻が初出場を果たしました。この駅伝大会は丹沢湖を周回し、42.195kmを全7区間でつなげます。星槎国際湘南は第1区において64校中53位と、大きく出遅れていましたが、第3区では怪我から復帰したデジェン君が素晴らしい走りを見せ、38人を抜き15位まで順位を押し上げてくれました。区間賞、そして従来の記録を33秒も更新し、24分33秒という区間新記録を成し遂げました。デジェン君は、「チームの皆と一緒に走れて、とても楽しかった。新記録が出て嬉しいです。次は5000mと10000mで自己ベスト更新を目指します。」と語ってくれました。最終的に、星槎国際湘南は20位となり、とても満足する結果で、初出場の駅伝大会を終えることができました。



駅伝でチームのために疾走するデジェン君

記録更新

チームとしての駅伝出場の他に、個人としての記録更新にも励みました。ツェリング君は、1500m 4分16秒70、200m 23秒57、アヌール君は5000m 14分40秒75、デジェン君も同じく5000m 13分

46秒86と、それぞれ自己ベストをもって今シーズンを締め括ることができました。



短距離選手として走りが身についたツェリング君



「今年は13分台を目指します。」アヌール君

SKY プロジェクト

神奈川県小田原市、箱根町、大磯町、そして星槎グループは、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を契機として、SKYプロジェクト（地域における（S）スポーツの振興、（K）教育文化の向上、（Y）友好関係を構築する）を通じた国際交流を推進しています。その一環として、留学生は大磯町のこどもたちとの交流事業に参加しました。国府保育園では園児たちと一緒にエリトリアやブータンの郷土料理を試食したり、紙飛行機を飛ばしたり、また国府小学校



SKY プロジェクトで、小学生たちに走り方のフォームを指導する留学生たち

と大磯小学校では放課後かけっこ教室に参加し、小学生たちに走り方を指導しました。留学生と触れ合う機会に、こどもたちは喜び、目を輝かせていました。地域のこどもたちと交流することで、留学生たちはより多くの応援を受け、これからも競技練習や勉学に励んでいくための糧を得たようでした。

日本語検定受験

留学生たちは競技だけではなく、勉強も一生懸命です。2018年12月には、来日してからの日本語学習の成果を試す機会として、日本語能力試験を、高校生はN5、大学生はN4を受験しました。日本語能力試験は、日本語を母語としない人を対象として、日本語の能力を測定し、認定することを目的として行う試験です。このような試験を受ける事に慣れていなかったり、緊張して間違った答えをマークしてしまったり、それぞれ不安要素もありましたが、全員無事に合格することができました。更に上のレベルを目指して、頑張っているですね。

ソナム・チョデンさん、 星槎 OP スピーチ部門特別賞受賞

大勢の人の前でスピーチをするのは、母国語でさえも難しいのですが、ブータンからの留学生ソナムさんは、来日1年未満で、日本語のスピーチに挑戦し、見事、特別賞を受賞しました。演題は「アーチェリーを通して変わった自分」で、ソナムさんがどうやってアーチェリーという競技に出会ったか、その中でどう成長したかについて話しています。またブータンでは、女性がスポーツをやる機会があまり与えられない中で、夢



かけっこで一番になった小学生にサインをプレゼント



将来の夢を紙飛行機にのせて、飛ばします



星槎スピーチ部門特別賞の表彰を受けるソナムさん

をあきらめずに努力すること、そうすれば必ず結果が出せるということを、強く訴えました。星槎オリンピック・クリエイティブ部門の舞台での発表は、観客約2,000人を前に、堂々とスピーチをすることができました。ソナムさんは、次のように感想を語ってくれました。

「直前まではとても緊張していたが、多くの人が応援してくれているので、しっかりやろうと頑張った。会場も全体を見渡すことが出来た。ブータンではクラスで話すくらいしかしたことなかったけれど、このような大きな会場でスピーチをする機会を与えてくださって感謝しています。」
(FGC 小野木愛)



第2回 Handa Cup アーチェリー大会 ブータン、ミャンマーから代表選手が参加

2018年9月15日より2日間にわたり、愛知県岡崎市で第2回 ISPS Handa Cup アーチェリー大会が開催されました。日本代表選手も多く出場するこの大会とその後の強化合宿に、全日本アーチェリー連盟様のご協力で前回に引き続きブータンから4名を招待、さらに今回はミャンマーから2名の代表選手、そして星槎国際湘南アーチェリー専攻の留学生2名も参加させていただきました。大会2日目のエキジビションマッチ（男女混合リカーブ）ではブータンからの留学生ニダップ君が、アジア大会の同種目で金メダルを取った杉本智美選手とペアを組み3位入賞しました。大会に出場したことも貴重な経験でしたが、大会後も引き続き、全日本強化選手たちと合同合宿でお互いの技術を高めることが出来たことは、ブータンとミャンマーの選手たち、そして留学生にとっても大きな励みとなったことと思います。（FGC 太田啓孝）



ニダップ君（左）とアジア大会金メダリストの杉本選手（右）



強化合宿に参加した選手と記念撮影

RTC テンジン・ヨンテン理事長 基調講演

2018年11月、星槎大学と姉妹校であるロイヤル・ティンパー・カレッジ（RTC）のテンジン・ヨンテ

ン理事長が来日されました。滞在中、星槎中学高校の全生徒・教職員に向けて基調講演をして頂き、ヨンテン理事長と宮澤理事長との出会いから変わりゆくブータンの変化について、知られざる事実と共にお話をして頂きました。

今でこそ、『世界で一番幸せな国・ブータン』、このようなキャッチフレーズを、誰もが一度は耳にしたこともあり、日本の多くの人がよく知るようになりましたが、星槎グループとブータン王国との関わりは、宮澤保夫理事長の30年以上に渡る個人的な関わりから始まっています。そして1995年、横浜ブータン王国友好協会を設立し、組織的、且つ継続的な協力関係を持つものになりました。宮澤理事長は、アシ・ケサン王女（先代国王御叔母様）とも懇意にあります。RTCが2006年に開校し、星槎大学と姉妹校にもなり、国際交流が始まります。アシ・ケサン王女はRTC設立に寄与されています。

本講演では、宮澤理事長との出会い以前に、実はヨンテン理事長の父であるツジ・ヨンテン氏と宮澤理事長はアマチュア無線を通じて交信をしていたこと、そしてヨンテン理事長がRTCの設立に関わり、並びに理事長になった背景には、御自身のお子さんを通わせたい学校がブータンになかったために、ブータン社会に新たな学校が必要と感じたことから、唯一となる私学を創ったことを分かり易くお話していただきました。

尚、2016年、RTCはブータン認定審議会（BAC）によって、最高級のA+（優秀）賞を受賞しました。このグレードを達成するのはブータン国内で現存する13の大学の中で唯一の大学となりました。

（FGC 石田博彰）



星槎中学高等学校の生徒と。前列真ん中が RTC ヨンテン理事長

東日本大震災支援報告

北の大地に会いに行こう!! 2018

東日本大震災を経験したこどもたちを元気づけようと始まったこの事業は、2012年夏から始まり、2018年冬で9回目となりました。これまでの参加者は、児童生徒475名、保護者16名、引率教員を含め500名を越えました。今回も40名定員に対してそれ以上の応募者がありました。

12月23日に相馬市民会館を出発し、仙台港から苫小牧港までフェリーで移動。翌24日の朝に北の大地、北海道に上陸しました。芦別市へ行く途中のパーキングエリアでは、雪を見るなりはしゃいでしまう姿が印象的でした。

あしべつ宿泊交流センターに到着後、荻原 貢芦別市長と前田 豊 星槎国際高等学校長から歓迎のスピーチがありました。芦別市、星槎グループが全面的に協力して、この企画を実施しています。夕食では、北海道の海鮮をふんだんに使った、海鮮手巻きを堪能。当初見られた緊張感が和らぎ、知らない子同士のつながりを持つきっかけとなりました。

25日はクリスマスパーティ。ケーキ作りでは、各班様々な個性を発揮して、繊細かつ大胆な発想でケーキを作り上げました。それはまさにアート作品でした! 芦別市職員の方がサンタになってじゃんけん大会。全員にプレゼントが渡されました。

また高校生が中心に企画した雪遊びを体験。中には自分の背よりも大きい雪だるまを協力して作っている子もいました。笑い声や元気な動きが絶えない一日でした。



雪あそびではしゃぐこどもたち



みんなで力を合わせてケーキ作り

26日は待ちに待ったスキー体験。例年に比べて雪が少なく、芦別市のスキー場がオープンできませんでしたが、メインであるスキー体験をなんとか実施しようと、芦別市のみなさんが頑張ってくれました! 隣の新十津川町の「そっち岳」スキー場で急遽実施しました。とても良い体験となりました。

振り返りタイムは全員が集中して、文章や絵を書いていました。今年度も全員の感想が書かれたパネルを完成させ、帰路につきました。毎日が初めてだらけのいい思い出になったようです。

(星槎国際高等学校本部校 加藤兼司)

サッカー交流支援

星槎奥寺カップ2018U-10が1月19日、相馬光陽サッカー場にて行われました。東日本震災後に始まった本取り組みは、サッカーを通してこどもたちに元気を与えること、相双地区への支援、少年少女の健全な育成と技術の向上を目的としています。今回全8チームが参加し、それぞれ素晴らしいプレーを見せてくれました。

また翌日1月20日には小学生4～5年生を対象にしたサッカースクールを同会場で開催しました。4年生17名、5年生35名、6年生44名、計96名の選手に参加いただき、星槎国際湘南の永瀬裕記コーチが指導担当しました。様々なかわり合いから笑顔溢れる楽しいスクールとなりました。震災から早8年、世界こども財団では今後も必要とされる活動を継続していきます。



星槎奥寺カップでボールを追いかけるこどもたち



サッカースクール参加者総勢96名

【星槎奥寺カップ 2018 U-10 結果】	
1 位	相馬 SCjrU10
2 位	仙台中田
3 位	相馬 SSS
4 位	FC 原一
5 位	大野 FC
6 位	相馬サザン
7 位	相馬 FC
8 位	相馬 SCjrU9

永瀬コーチよりコメント

相馬でのサッカースクールは 2 回目の指導となりました。特に印象的な事としては、私が伝えたことを吸収する早さです！今回「ゴールを奪う」というテーマで指導しましたが、ゲーム形式でのトレーニングでは白熱した展開から大人顔負けのゴールシーンや攻防を繰り広げていました。私自身、相馬のこどもたちの笑顔に勇気と元気をもらうことができました。今回の活動がこどもたちの力に少しでもなれたら幸いです。



緊急災害支援報告

FGC の災害支援活動 2018

世界こども財団ではこれまでも、国内外で発生した災害に対し支援活動を実施してきました。2011 年に発生した東日本大震災に対しては、発生直後から現在に至るまで活動を継続し、国外でも 2015 年のネパール大震災に対する支援等を行ってきました。

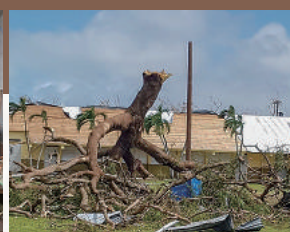
そして昨年 2018 年は、「災」の字が「今年の漢字」に選ばれるほど、国内外で多くの災害に見舞われた一年となりました。世界こども財団でも微力ながら、昨年発生した災害とその被災者のみなさまへ向けて、緊急募金活動等の展開をして参りました。

西日本豪雨支援

2018 年 7 月 3 日から 8 日にかけて、台風 7 号の接近や梅雨前線の停滞により西日本や東海地方に発生した豪雨は、死者 200 人を超える平成最悪の豪雨被害となりました。世界こども財団では、災害直後より緊急募金活動を開始し、星槎国際高校広島学習センターを通して、土砂災害が相次ぎ被害の大きかった広島県呉市に義援金を送りました。

北海道胆振東部地震支援

2018 年 9 月 6 日、北海道胆振地方中東部を震源とした最大震度 7 の地震により広範囲にわたり土砂



台風で大きな被害を受けたサイパンの学校の様子

崩れが発生、長時間の大規模停電など甚大な被害をもたらしました。世界こども財団ではこの地震に対しても義捐金の募集を展開し、全国の星槎グループの校舎や事業部でもワンコイン募金箱の設置等の活動を行いました。

サイパン台風被害支援

日本ではあまり報じられていませんが、2018 年 10 月にサイパン島をはじめとする北マリアナ諸島を直撃した台風（YUTU）は、カテゴリー 5 に分類される超大型の台風で、サイパン島では緊急事態宣言が発令されるなど甚大な被害をもたらしました。

サイパンと星槎グループは、マリアナ・ハイスクールとの姉妹校交流をはじめ、30 年以上の親交があり、星槎の国際交流の原点とも言える場所です。世界こども財団が窓口となり、星槎グループの全事業部が協力して義捐金募集活動を実施、日本円にして約 300 万円を現地のマリアナ・ハイスクールおよびフランシスコ・メンディオーラ・サブラン・ミドルスクールに送りました。（FGC 石井洋祐）

これらの災害支援活動に対しても、全国のみなさまから多大なご支援をいただきました。誠にありがとうございます。

2019年度 個人会員・法人会員を募集しています

世界こども財団の活動は、みなさまのあたたかい心により支えられています。
こどもたちの未来づくりのため、ご参加とご協力をお願い申し上げます。



賛助会員

個人会員 年会費

6,000 円 / 一口

法人会員 年会費

120,000 円 / 一口

年 4 回 FGC ニュースをお届けいたします。

ご寄付

世界のこどもたちに、将来の夢と希望を！ 金額を問わず、随時受け付けております。

詳しくは、世界こども財団のホームページまたは、お気軽に事務局（電話番号：0463-74-5359）までお問い合わせください。

2018年9月～2018年12月 寄付モノ・寄付コラボ商品の報告

寄付モノ	(円)	寄付コラボ商品	(円)
本	39,228	自動販売機（販売社 15 社より）	
カード類（テレカ・図書カード・各種金券等）	11,300	売上より	4,759,522
合 計	50,528	合 計	4,759,522

全国の皆様のご厚志でこんなに寄付が集まりました。心より御礼申し上げます。

(2018 年 12 月末)

ご協力いただいている企業・団体様（順不同）

●アマチュア無線関係の皆様 ●(株)トキコ・プランニング ●(株)ルミネ ●(株)ルミネクリエイティブ ●コグメド・ジャパン(株) ●(株)全日警横浜支社 ●山下寝具(株) ●(有)オク・インターナショナル ●(株)興学社 ●(株)ユーミーホールディングス ●東海プラント(株) ●はやし亭 ●フルサワ印刷(株) ●道東基礎工業(株) ●伊藤平左衛門建築事務所 ●(社)日本ミャンマー協会 ●国際ソロプチミスト二宮 ●横浜リテラ ●(株)バリューブックス ●(株)湘南ウイル ●(株)ダイードリンク ●西武商事(株) ●コーシンサントリービバレッジ ●(株)八洋府中営業所 ●コカ・コーライーストジャパン(株) ●コカ・コーラウエスト(株) ●北海道コカ・コーラボトリング(株) ●東京キリンビバレッジサービス(株) ●北海道キリンビバレッジサービス(株) ●キリンビバレッジバリューベンダー(株) ●北海道ベンディング(株) ●(株)ベネフレックス ●ユニヴァーサル商事(株) ●(有)安田コーポレーション ●大蔵屋商事(株) ●FVジャパン(株) ●合同会社SV北陸 ●(有)山川屋 ●学校法人武蔵野学院 ●ワットマンスタイル二宮店 ●ツルセミ ●みんな電力(株) ●(株)プリンスホテル ●箱根建設(株) ●(株)JTB コーポレートセールス ●富士屋ホテル(株) ●(株)アストロ ●(株)プロコミュニケーション ●(有)ケンセー ●(株)大塚商会 ●東京体育用品(株) ●共栄建設(株) ●(株)カナオリ ●トレーラーハウスデベロップメント(株) ●(株)g-3 ●サントリービバレッジ(株)北海道営業本部 ●三基工業(株) ●浜松帝国警備保障(株) ●(有)丁 ●京都ハウジング(株) ●学びリンク(株) ●NPO 法人トータルケアセンター ●(有)左衛門 ●(株)ドリーム ●学校法人田島学園 ●(株)山一地所 ●医療法人社団鉄匠会 ●(株)伊藤園 ●FTI (株) ●(株)みやざき ●アイリスチトセ(株) ●(株)鈴廣蒲鉾本店 ●小田原ヤクルト販売 ●星友会 ●星親会 ●星睦会 ●星槎全国生徒会

その他、個人、企業の皆さまから多大なるご協力をいただいております。誠にありがとうございます。

表紙の写真

上から ●IOC パッハ会長と宮澤理事長 ●SAAB2018 TED で発表する星槎国際湘南ツエリング君 ●SAAB2018 マルチエイジディスカッションにて。RTC 学生と星槎国際湘南留学生 ●神奈川県高校駅伝大会にて疾走する星槎国際湘南陸上競技専攻デジェン君 ●北の大地に会いに行こう!! 星槎国際高等学校本部校にて



2019 年 2 月発行

公益財団法人 世界こども財団

〒259-0111 神奈川県中郡大磯町国府本郷 1805-2 (星槎グループ内)

TEL. 0463-74-5359 FAX. 0463-74-5374 E-mail: fgc@fgc.or.jp

ホームページ: <http://www.fgc.or.jp> Facebook: 「世界こども財団」で検索!

印刷: フルサワ印刷株式会社 制作: 岡村直実 (JC ユニット)

